小・中学校と連携した地域を支える教職人材の育成

北海道網走南ケ丘高等学校　学級数 12　（校長　渡辺　淳一）

１　実践の趣旨

本校では、生徒が地域の小・中学校でのインターンシップを通して、教員の職務、学校教育の内容、子どもと触れ合う楽しさなどについて理解を深め、教職に魅力を感じ、将来教員になろうとする意欲を高めるため、令和２年度から教職インターンシップを実施している。新型コロナウイルス感染症の感染が広がる中ではあるが、オホーツク教育局や網走市教育委員会とも連携し、網走市立網走小学校及び網走市立第一中学校の協力により実施している。

２　実践の概要

⑴ 教職インターンシップの実施（網走市立網走小学校及び網走市立第一中学校）

本校では、参加対象時期を３年生の９月頃及び２年生の１月頃とし、特に３年生には受験直前の職業意識の向上を図っている。実施校においては、事前指導日（オリエンテーション）を設けて参加者の意識向上を図るとともに、実施日は２日間に渡る段階的な指導を行っていただいている。

【児童への外国語の授業】

網走小学校では、校長による講話から始まり、児童との出会い、授業見学・授業サポート、休み時間での交流、栄養教諭による給食指導講話を実施した。また、６年生の進路指導の時間では自らの経験を話し、高校生までの振り返りの機会となっている。さらに、担当教諭が参加生徒に対して学習指導案づくりに関する指導を行い、２日目には参加生徒が指導案に基づいて授業を実施している。

【参考】参加生徒数の経緯

Ｒ２年度：３年次生４名　２年次生５名　　Ｒ３年度：３年次生７名　（２年次生は中止）

Ｒ４年度：３年次生９名　２年次生８名

⑵ 学習サポーターによる小学生への支援

夏冬の長期休業期間に、本校生徒が地域の小学校で、児童の学習支援を実施している。実施校では、通常時間割に基づいて学習時間を設定し、児童が自主的に課題を選択して学習しており、参加生徒は、多様な学年、教科の中、個別指導により担任教諭とともに学習支援を行っている。また、中休み時間には、児童とともに体づくりや対話なども行っている。

【小学校での学習サポート】

【参考】参加生徒数の経緯

Ｒ２年度：夏９名　冬９名　　Ｒ３年度：夏７名　冬 10 名　　Ｒ４年度：夏 11 名　冬 17 名

３　今後の取組に向けて（〇成果　●課題）

〇　参加生徒はインターンシップを通じて、教職が児童・生徒の人間的成長に関わる重要な職業であることを実感することができた。また、受入校からは、現職の教員にとっても教職を振り返る機会となったと評価を得ることができた。

〇　本校においては、生徒の教職志望の動機が、在籍小・中学校での教師からの指導や支援であることや、僻地・小規模校での授業体験にあることが判明した。

〇　実施年度以降、教育及び教員養成系大学への合格率が高くなった。

Ｒ元年度 10 名受験　うち５名合格（合格率 50.0%）　　Ｒ２年度 12 名受験　うち８名合格（合格率 66.7%）

Ｒ３年度 12 名受験　うち 11 名合格（合格率 91.7%）　　Ｒ４年度４名受験　うち３名合格（合格率 75.0%）

（※　Ｒ４年度は総合型選抜の結果のみ）

●　参加生徒の教職志望の動機が、高等学校入学後ではなく、義務教育段階での経験によることが大きいことから、地域における小中高特の学校間連携の強化・工夫を図るとともに、大学入学後の学びを通じて、教職や地域の課題についてどのような考えを抱き、解決に向けて取り組むのかを追跡調査などにより把握する必要がある。

●　実施校数の増加に向けて、積極的に取組の成果を周知するなど、受入先小・中学校の負担軽減を図る必要がある。